

2011年9月18日

「私の心と口を守って下さい」ヤコブ 3:2~12

I 先行している神の驚くべき恵み。主は、私たちを愛して、私たちの言葉の罪＝悪口、陰口、非難、批判、人を傷つける言葉、嘘、偽り、ごまかし、他のありとあらゆる私たちの罪を負い、十字架で私たちの身代わりに死に、すべての罪の罰を受け、完全に償って下さったのです。ハレルヤ！心から神に感謝したい。

II 神から離れている時の私たちの罪、弱さ。

1. 「私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です」：2。神でありながら、私たちの身代わりに死ぬために人となられたイエス様以外に完全な人はいません。「キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです」(Iペテロ2:22~24)。
2. 私たちの「舌も小さな器官ですが、大きなことを言って誇るのです。ご覧下さい。あのよう小さい火があのような大きい森を燃やします。舌は火であり、不義の世界です。舌は私たちの器官の一つですが、からだ全体を汚し、人生の車輪を焼き、そしてゲヘナの火によって焼かれます」：5, 6。私たちの舌は、神のおかげであることを忘れ、自分の力ですべてができたかのように、大きなことと言って誇ります。小さい舌も大きな破壊力を持ちます。小さな火遊びが大火事になり、小さなタバコの火が大きな森を燃やすように、小さい舌で話す小さなうわさ、悪口が、町中、教会中、国中に疑惑の渦を巻き起こし、一つの失言が、人生の車輪を焼くことがあります。生きている間に、自分の舌の罪や他の罪を神に正直に告白して悔い改めないなら、最後の審判の時に、ゲヘナ（悪い者が裁かれる場）で神の正しい裁きがあります。「人はその口にするあらゆるむだな（根拠のない、実体のない）ことば（不注意な言葉、根拠のない噂話、実態のない無責任な発言）について、さがきの日には言い開きをしなければなりません」(マタイ12:36)。御聖霊が気づかせられた時にすぐに神にお詫びをしましょう。必要な時は、人にも謝りましょう。
3. 「舌は火であり、不義の世界です」：6。舌は、不義（悪）の世界を代表するものです。多くの不義（貪欲、偶像礼拝、冒瀆、欲望、強欲、ねたみ、憎しみ、差別、えこひいき、嘘、ごまかし等）は、舌を通して表現され行われます。その結果、からだ全体を汚し、自分の全人格とその言葉を聞かされる人々の全人格を汚すこととなります。
4. 「舌を制御できることは、だれにもできません。それは少しもじっとしていない悪であり、死（自分と人々を滅ぼす）の毒に満ちています」：8。私たちは、無力です。しかし希望があります。主を信じ、祈り、御霊に心を満たし、支配していただくことです。「御霊の実は…自制です」(ガラ5:22, 23)。
5. 「賛美とのろい（悪口、陰口、非難）が同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あってはなりません」：10。礼拝の中で神を心から賛美し、その礼拝後、その同じ口である人の

悪口を言ってしまうのです。

Ⅲ 主にある解決、希望。神に喜ばれるように舌を制御するには。

1. 「心に満ちていることを口が話すのです」マタイ12：34。外側の口だけを聖めようとしても無駄です。心に満ちていることを口が話すのです。ですから、まず自分の心が聖められ守られるように祈りましょう。
2. 「主よ。私の口に見張りを置き、私のくちびるの戸を守ってください」（詩篇141：3）と日々、人々と交わる前に、大切な会に出席する前に心から神に祈りましょう。
3. うわさ話、陰口が伝わったとき、片方からの情報で判断せず、すぐに他の人に話すのでなく、自分の所で止めて（「自分のくちびるを制する者は思慮がある」箴10：19）、すべてを御存じの神に祈りましょう。「自分に関係のない争いに干渉する者は、通りすがりの犬の耳をつかむ者のようだ」箴26：17。自分の分をわきまえることができますように。「何についても、先走ったさばきをしてはいけません」Ⅰコリ4：5。交わりを壊そうとする悪魔のわなから自分も他の人々も守られるように。「陰口をたたく者がなければ争いはやむ」箴言26：20。関係が近い人のうわさの場合、必要な時には、良く祈り、愛をもって、当人に真実を確認できますように。「柔らかな答えは憤りを静める。しかし激しいことばは怒りを引き起こす」箴言15：1。同じことを言うのにも、激しい言葉と柔らかな言葉は、違う結果を生みます。「御霊の実は柔和」（ガラ5：23）です。まず、神の前に静まり、柔和を祈り求め、相手に語りましょう。
4. 何も話さず、一切口を用いないという消極的な生き方を神が求めておられるわけではありません。神は、目的を持って口を私たちに与えられました。①神との祈りの交わりの為。②神をほめたたえ、賛美する為。「私はあらゆる時に主をほめたたえる。私の口には、いつも主への賛美がある」詩篇34：1。③神と人々に感謝する口。「むしろ、感謝しなさい」エペソ5：4。④慰めの言葉「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができますのです」Ⅱコリ1：4。「我慢せずに、泣いてもいいんですよ」と。寄り添いつつ。緊張をほぐし、場を和ませるユーモアの言葉も用いられる。⑤神が関係作りをしてくださったときに、素晴らしいイエス様のことを伝える口として。祈り：私の心と口をきよめてください。あなたが喜ばれるように、口を用いることができますように。